



文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*  
本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

先日、NHKを訪れた際に「だいぶ暗い（電灯など消しているため）ですね」と問いかけると、「総務省はもっと暗いですよ」との返答が。翌日に訪問した総務省は確かに真っ暗で、NHK同様の話を振ってみると「経済産業省はもっと……」だとか。上には上がいる、という話ではなく、世間の模範となるべき各所ではしっかりと節電対応を進めている、という話です。それではワンセグチェック、スタート。

## 地上波移籍のNHK「SHIBUYA DEEP A」 双方向とワンセグ2を活用したユニークコンテンツ

### 『SHIBUYA DEEP A』 BS2から地上波に移籍

NHK総合テレビで金曜深夜（土曜0時15分～1時14分）に放送中の『SHIBUYA DEEP A』は、4月にBS2から総合テレビに場所を移した若者向け人気番組。BS2放送当時はETVのワンセグ2で非サイマル放送が行われていたため、BS番組でありながらワンセグ双方向データ放送が使える、という異色の番組だった。

地上波に移ったということで、ワンセグデータ放送利用は自然になったわけだが、加えてチェック当日（5月13日）からはワンセグ2延長放送（地上波放送終了後にETVワンセグ2のみで放送継続）がスタート。深夜とはいえ、近年珍しいほどワンセグに意欲的な取り組みと言えよう。

まずは本編のデータ放送から。双方向参加型番組のため、最初にニックネームや性別ほかを登録。すると投稿受付テーマ3本がメニューとして提示され、それぞれ選択すると投稿入力画面へと遷移する。あとは投稿内容を入力し、番組および番組外利用（書籍化など）に同意すると、簡単に投稿することができる。

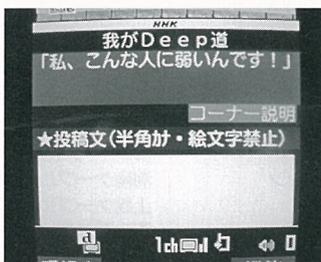
参加コンテンツは投稿だけではなく、簡単な投票コーナー（ロンブー田村淳、ケンドーコバヤシそれぞれが選んだ投稿ハガキのどちらが優れていたかを選ぶなど）も用意。放送の進行に合わせて、データ放送画面が自動で切り替わるという親切設計となっている。なお、メニュー選択で番組トップ（投稿を行う画面）にも戻れるが、一度戻ると投票選択画面には戻れない（少なくとも私は戻する方法を見つけられなかった）ようだ。

### シンプルなデザインと 高い操作性

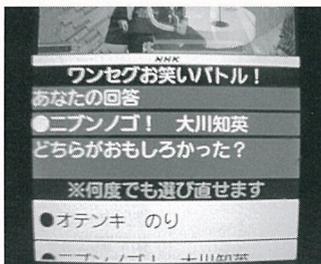
「投稿に特化した」ともいべきシンプルな



トップ画面はシンプルなデザイン。番組進行とともにメニューも消える



投稿画面。スペースを選択すると、全画面が入力画面に遷移



延長戦のデータ放送。クオリティは本編放送中と変わらず

デザイン、操作性には好感が持てる。例えばメニューを縦に3本並べていることで、十字キー横には反応しないというワンセグデータ放送操作の難点をクリアしており、チャンネルが替わってしまうなどの誤操作も招きにくい。なお投

稿受付が終わったメニューは番組進行とともに自動で消えていく。先の投票画面を含め、こうした放送経由データ放送のダイナミックな活用は面白い。

何より個人的に素晴らしいと感じたのは、番組本編でも積極的に「ワンセグデータ放送の存在」をPRしている点。投稿受け付けルートとして携帯サイトも用意（QRコードから遷移可能）しているが、そのケータイサイトでも「ワンセグでも参加できます」と呼びかけていた。

残念だったのは、現状、スマートフォンからの投稿に対応していない点。せつかくの尖ったコンテンツであり、また若年層を対象とした番組であるだけに、早めの対応が望まれるところだ。

### ワンセグ2「延長戦」も なかなかの内容

地上放送が終了すると、いよいよワンセグ2の延長放送がスタート。本放送同様、こちらも双方向投稿受付を伴うデータ放送がある。

ワンセグ画面左上には「画面を縦にして参加」のスーパーを表示。ワンセグのみの放送であるため、当然、ケータイサイトでの投稿受け付けはないようだ。それでも司会者のケンドーコバヤシやロンブー淳が投稿を読む際に「ワンセグからの投稿」と紹介していたのは1回目ならではご愛嬌だろう。

延長戦も内容的になかなかおもしろく（これが一番重要）、参加感も高い。何より、本編同等のデータ放送レベルをワンセグだけの放送でも保っていることは評価が高い。スタッフの苦勞が忍ばれるところだ。

本編を含め番組単体として楽しめる番組であるとともに、ワンセグに特化した印象もプラス。こうした番組が新たな可能性を切り開いていくことを期待したい。

